第10回 総合

◆次の文章をしっかり音読してから、後の問いに答えなさい。

駅のスピーカーが上り列車の三十分おくれを告げたころから、少年はすこし後悔しはじめていた。母親のいうことをきいて、①きょうはやめにしたほうがよかったのかもしれない。しかし、ここまで来てひきかえすというのはいかにも心のこりだ。

（大丈夫さ、おくれたって、汽車はちゃんとくるんだから――）

少年はためらう心をA〜ひきたててナップサックをゆすりあげた。

※山峡の村に住んでいる祖父のところへとどけものをする用ができたので、遊びがてら日曜にと前々からたのしみにしていたそのきょうが、朝からすさまじい吹雪である。汽車で三十分、バスで一時間、そこからまた三十分歩く道のりを母がしきりにB〜案ずるのを、ふりきって出てきた少年であった。

三十分のはずの延着がさらに十五分のびてから、ようやく改札がはじまった。ブリッジをわたりかけた乗客たちは、プラットホームの吹きさらしをおそれて、みな階段をおりかけたまま立ちどまっている。深夜のようにひと気のないホームには、うずまく吹雪が不規則な※風紋をえがき、ぶあつい※アノラックやオーバーに身を包んだ人びとは、ブリッジの中途に鈴なりのかたちで黙々と汽車を待った。

ほどなく、石膏をまぶしたような列車が着いた。乗りこんでしまえば、そこは、②窓外の吹雪がひとつの景色としかみえない※ぬくとさである。車内のあちこちで、早すぎる冬の到来を声高に話しあうのをききながら、少年はアノラックのポケットのなかで、③かたい往復切符をにぎりしめていた。

五つめの駅でおりる。改札口を出るやいなや、まっこうから吹きつける雪に、少年はアノラックの帽子をしっかりおさえてバスの停留所へと駆けた。

三、四人が乗りこんだところで、すぐバスのドアがしまる。小さい町のこととて、乗客たちはたがいに顔見知りとみえ、運転手をもまじえて陽気なやりとりがかわされているのに少年は耳をかたむけ、ときには話につられて声を出して笑ったりもした。

（　中　　略　）

一時間とすこし乗って、少年はバスを降りた。となりのおばあさんが、「気をつけてな」と声をかけてくれる。ドアがしまると、少年は吹雪の野にひとり取りのこされた。

だれも通らない。木がうなっている。風がさっきよりはげしくなった。右を向けば右から、左を向けば左から、砂つぶてのような雪がぶつかってくる。長ぐつのくるぶしを埋めるほどの雪が半ば凍っていて歩きにくい。ナップサッ

033-036_責）演習-国4年_所.indd 33　12.6.1 2:14:08 PM

クのひもが肩にくいこむ。風が帽子をもぎとる。どこをかばったらいいのかわからない。ただ、足もとだけを見つめて歩く。

山ひとつまわって、くぼ地へ出たとたん、少年は立ちすくんだ。視界のかぎりこまかい雪片がうずまいて、目もあけていられない。思わずあとずさりしたが、雪はようしゃなく顔をたたく。ぐっと力を入れないと足が前へ出ない。ためらっているうちにアノラックとズボンがみるみるまっ白になっていった。

④少年ははじめて恐怖を感じた。近くに人家はない。バスの路線からもはずれている。しゃにむに十歩ほど歩いてみたが、目をあいていられない、頬が痛む。少年は頭をさげ、よろめきながら歩いた。

頭をさげてもさげても、吹雪はその顔をすくいあげるようにぶつかってくる。少年はついにうずくまった。くちびるが泣くかたちにゆがんだが、風に呼吸を奪われて声が出ない。

二、三度、あえぐようにしゃくりあげて、少年は気が遠くなりかけた。

そのとき、少年は、だれかの声をきいたと思った。

――吹雪にあったら頭をさげるな。

それは、これからたずねていく祖父の声に似ていた。そうだ、いつか、たしかに、この声をきいたことがある。柱の太い古い家の、大きないろりのそばで、まだ幼かった少年を、土のにおいのするひざに抱いて、祖父のきかせてくれた話。そのとき、たしかに祖父は言った。

――吹雪にあったら頭を下げるな。吹雪をにらんでいけ。頭を下げるな……

少年は立ちあがった。顔をあげた。その顔をまともに雪がたたいた。

息がつまる。動悸がはげしい。ふたたびうつむきたい※衝動をこらえて、少年は肩を張り、ぐっとあごをあげた。川をさかのぼる魚のように大きく目をみひらいた。

そのとき。

吹雪は、少年のひたいでふたつに裂けた。

激流が一本の杭にぶつかってふた筋にわかれるように、吹雪は少年のからだを避けて吹きぬけた。

少年は、呼吸が急に楽になったのに気づいて一瞬ぼうぜんとし、それから、⑤全身がかっと熱くなった。かじかんだ指が伸びた。そして、しっかりした足どりで前に出た。

吹雪は、一本の火の柱にまといつく煙のように、少年のまわりをうずまいた。⑥少年は、自分がひとつの力を得たことを知った。

少年は、それからうつむかずにまっすぐ歩いた。

吹雪のリズムにあわせて呼吸をととのえながら、らくらくと歩いた。風も雪も、ふたたび少年をおびやかさなかった。

無事に祖父の家へついて用をすませ、暗くなってから帰

033-036_責）演習-国4年_所.indd 34 12.6.1 2:14:09 PM

りついて自分の家のあかりを見たとき、はじめて⑦少年の目に涙があふれた。少年はしばらく立ちどまって、⑧涙でにじんだそのあかりがもとどおりに見えるまで待ち、それから、いきおいよく玄関の戸をあけた。

【杉みき子「小さな旅」（『小さな雪の町の物語』〈童心社〉所収）より】

※山峡…山と山の間。　※風紋…風や砂がつくる模様。
※アノラック…帽子付きの防寒着。　※ぬくとさ…あたたかさ。
※衝動…とつぜん何かをしたくなる気持ち。

問一　〜〜線A・Bの、この文章中での意味として最も適切なものを、次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A「ひきたてて」（8行め）
ア　ひいきにして　　イ　ごまかして
ウ　なぐさめて　　エ　はげまして

B「案ずる」（14行め）
ア　想像する　　イ　問いつめる
ウ　心配する　　エ　考える

問二　――線①「きょうはやめにしたほうがよかったのかもしれない」とありますが、少年が祖父の家に行くことを「やめにしたほうがよかったのかもしれない」と思ったのはなぜですか。その理由を説明した次の文の［A］・［B］にあてはまる言葉を文章中からそれぞれ指定の字数でさがし、ぬき出して答えなさい。ただし［B］は、はじめと終わりの三字をぬき出すこと。

・［A　十字］である上に、［B　二十三字］ため、不安になってきたから。

問三　――線②「窓外の吹雪がひとつの景色としかみえないぬくとさである」とありますが、これはどういうことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　列車の中があたたかいので窓がくもり、外の景色がぼんやりとしか見えないということ。
イ　窓の外の景色はさびしいが、列車の中は人々のあたたかさに満ちているということ。
ウ　あたたかな列車の中からは、吹雪の風景がふだんよりも美しく見えるということ。
エ　窓の外の吹雪を見て現実味を感じないほどに、列車の中はあたたかいということ。

問四　――線③「かたい往復切符をにぎりしめていた」とありますが、このときの少年の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　列車の中のにぎやかな雰囲気にほっとしながらも、列車に乗ってしまった以上、ひきかえすことはできないのだと気を落としている。

033-036_責）演習-国4年_所.indd　35　12.6.1　2:14:09 PM

イ　この先にも障害があるかもしれないと不安に思いながらも、何としてでも目的地までたどりついてみせると決意している。

ウ　車内の人々のあたたかさにふれたことで、かえって、一人で旅をしていることの心細さを身にしみて感じている。

エ　ようやく列車に乗れたことをうれしく感じつつ、もしもこの往復切符をなくしたらどうしようと不安に思っている。

問五　――線④「少年ははじめて恐怖を感じた」とありますが、なぜですか。五十字以内で説明しなさい。

問六　――線⑤「全身がかっと熱くなった」少年を、何にたとえていますか。文章中から六字でぬき出して答えなさい。

問七　――線⑥「少年は、自分がひとつの力を得たことを知った」とありますが、

1　「ひとつの力」とは、どのようなものですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　困難にぶつかっても、おそれずに立ち向かっていく勇気。

イ　きっと目的地までたどりつくことができるという希望。

ウ　うつむきたい衝動を必死にこらえるがまん強さ。

エ　吹雪のリズムにあわせて、呼吸をととのえる冷静さ。

2　少年が「ひとつの力」を得るきっかけとなったのは、どのようなことですか。三十五字以内で答えなさい。

問八　――線⑦「少年の目に涙があふれた」とありますが、このときの少年の気持ちとして適切なものを次から二つ、選び、記号で答えなさい。

ア　優越感　　イ　ためらい　　ウ　安心

エ　さびしさ　　オ　達成感　　カ　後悔

問九　――線⑧「涙でにじんだそのあかりがもとどおりに見えるまで待ち」とありますが、少年がこのようにしたのはなぜですか。適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　帰りがおそくなった理由を母に説明するために、泣きやんで心を落ち着けようと考えたから。

イ　泣き顔のままで帰っては、自分を気づかっていた母にもっと心配をかけてしまうと思ったから。

ウ　せっかく困難な仕事をやりとげてきたのだから、堂々とした姿を母に見せたいと思ったから。

エ　きょう味わったつらく苦しい思いを、母に知られたくないし、自分も早く忘れたいと思ったから。

オ　でかけることに反対していた母に泣き顔を見せたら、しかられるかもしれないと考えたから。

033-036_責）演習-国4年_所.indd 36　12.6.1 2:14:09 PM